



Cisco Unified Video Advantage の トラブルシューティング

- ビデオの問題の解決方法 (P.4-1)
- Cisco Unified Communications Manager の診断ツールの使用方法 (P.4-6)
- Cisco Unified Video Advantage の診断情報とログ情報の収集方法 (P.4-8)

ビデオの問題の解決方法

- 複数の参加者による会議でビデオが表示されない (P.4-1)
- 音声とビデオリップ同期の不良 (P.4-2)
- ビデオウィンドウにビデオが表示されない、ビデオ無効アイコンが表示される (P.4-2)
- Cisco Unified IP Phone の LCD 画面に「ビデオ帯域幅が使用できません」というメッセージが表示される (P.4-3)
- システムトレイにビデオ問題のアイコンが表示される (P.4-3)
- 電話スクリーンにビデオアイコンが表示されず、Cisco Unified Video Advantage が Cisco Unified IP Phone に関連付けられない (P.4-3)
- モバイル機器を使用している従業員または在宅勤務社員の帯域幅問題 (P.4-4)
- H.323 エンドポイントでのコールの切断 (P.4-4)
- PC の CPU 使用率が 100 パーセント (P.4-5)

複数の参加者による会議でビデオが表示されない

問題 複数の参加者による会議でビデオが表示されない

解決策 Cisco Unified Communications Manager (旧称 Cisco Unified CallManager) で、Media Resource Group と Media Resource Group List に MCU が含まれていることを確認します。

音声コンファレンスブリッジではなく、ビデオコンファレンスブリッジが割り当てられていることを確認します。

関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディアリソースグループリストの設定」の項
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「メディアリソース」の項

音声とビデオ リップ同期の不良

問題 音声とビデオ リップ同期の不良

解決策 この問題は、次のような原因が考えられます。

- QOS の問題。Quality Of Service がネットワーク全体で正しく設定されていることを確認します。
- PC での CPU 利用率が高い。ビデオ コール中は、いくつかのアプリケーションを閉じるようにユーザに指示します。
- ネットワークの輻輳。

関連項目

- Quality Of Service のデザイン ガイド:<http://www.cisco.com/warp/public/779/largeent/it/ese/srmd.html>
- PC の CPU 使用率が 100 パーセント (P.4-5)

ビデオ ウィンドウにビデオが表示されない、ビデオ無効アイコンが表示される

問題 ビデオ ウィンドウにビデオが表示されない、ビデオ無効アイコンが表示される

解決策 次の解決策を試してください。

- ビデオが表示されない問題をトラブルシューティングするには、『Cisco Unified Video Advantage ユーザ ガイド』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5662/products_user_guide_list.html
- ビデオに対してリージョンが正しく設定されていることを確認します。関連項目を参照してください。
- ロケーションに十分なビデオ帯域幅が割り当てられていることを確認します。関連項目を参照してください。
- ビデオ機能をサポートしていない Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) またはトランスコーダが、ビデオ コールに割り当てられていないことを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager Release 5.0 を使用している場合、ビデオ画質設定を特定の値以下に調整すると、Cisco Unified Video Advantage でビデオが表示されなくなります。Cisco Unified Communications Manager Release 5.0(4) 以降にアップグレードして、この問題を解決します。
- Cisco Unified Video Advantage はポート 5445 を使用します。ファイアウォールがこのポートをブロックした場合、ユーザはビデオを受信できません。ポート 5445 へのアクセスを許可し、ビデオを有効にするように、ファイアウォールを設定する必要があります。
- Cisco VPN Client 4.0 にアップグレードします。以前のバージョンの Cisco VPN Client は、ビデオをサポートしていません。
- Cisco Unified IP Phone が SCCP プロトコルで動作していることを確認します。Cisco Unified Video Advantage は、SIP 環境ではサポートされていません。

関連項目

- Cisco Unified Communications Manager の設定 (P.1-4)
- 複数の参加者による会議でビデオが表示されない (P.4-1)
- システム トレイにビデオ問題のアイコンが表示される (P.4-3)

Cisco Unified IP Phone の LCD 画面に「ビデオ帯域幅が使用できません」というメッセージが表示される


問題 Cisco Unified IP Phone の LCD 画面に「ビデオ帯域幅が使用できません」というメッセージが表示される

解決策 ビデオ コールを行うための帯域幅が不十分です。この状況では、Cisco Unified IP Phone は音声だけのコールを行います。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager の設定 \(P.1-4\)](#)
- 『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「ロケーションの設定」の項

システムトレイにビデオ問題のアイコンが表示される

問題 PC のシステムトレイにビデオ問題のアイコン  が表示される


解決策 Cisco Unified Video Advantage が、Cisco Unified IP Phone または Cisco IP Communicator に関連付けられていません。Cisco Unified Video Advantage が CDP を正しく送信していない可能性があります。次の解決策を試してください。

- Cisco Unified IP Phone の場合は、クライアント コンピュータが電話機の背面にある PC ポートに接続されていることを確認します。
- イーサネット ケーブルに欠陥がある可能性があります。ケーブルを交換します。
- Cisco IP Communicator の場合は、Cisco IP Communicator Release 2.0 以降を実行していることを確認します。

関連項目

- [Cisco Unified IP Phone の LCD 画面に「ビデオ帯域幅が使用できません」というメッセージが表示される \(P.4-3\)](#)

電話スクリーンにビデオアイコンが表示されず、Cisco Unified Video Advantage が Cisco Unified IP Phone に関連付けられない

問題 Cisco Unified IP Phone の LCD 画面にビデオアイコン  が表示されない。Cisco Unified Video Advantage が Cisco Unified IP Phone に関連付けられない。

解決策 次の解決策を試してください。

- Cisco Unified IP Phone ファームウェアのバージョンを確認します。ビデオをサポートしたファームウェアバージョンになっている必要があります。
- Cisco Unified IP Phone モデルがサポートされていることを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager で、Cisco Unified IP Phone 用に次のパラメータが正しく設定されていることを確認します。
 - ビデオ機能が有効になっている。
 - PC ポートが有効になっている。
- PC と Cisco Unified IP Phone の間で ping を実行できることを確認します。
- SIP 用に設定されている電話機を使用していないことを確認します。現時点では、Cisco Unified Video Advantage は SCCP のみでサポートされています。

関連項目

- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.1-5\)](#)

モバイル機器を使用している従業員または在宅勤務社員の帯域幅問題

問題 LAN を通じて作業を行う場合、通常は帯域幅の設定を変更する必要はありません。モバイル機器を使用している従業員または在宅勤務社員がいる場合は、それぞれの帯域幅設定の制限を最大レートにする必要が生じることがあります。

解決策 次の解決策を試してください。

- Cisco Unified Video Advantage コンソールからビデオ画質の設定を調整するようユーザに指示します ([Settings] > [Video Quality])。[Automatic] を選択解除し、スライダを移動して帯域幅の設定を調整するよう指示します。ポップアップ ツールチップに帯域幅レートが表示されます。
- インターネット サービス プロバイダーに問い合わせるか、上級ユーザの場合は、DSL Reports インターネット サイト (<http://www.dslreports.com/stest>) を参照し、説明に従ってアップロード速度およびダウンロード速度を確認します。一般に、帯域幅はアップリンク速度に基づいて選択します。これは、通常 50 Kbps ~ 500 Kbps の範囲です。

アップリンク速度を確認したうえで、選択する帯域幅設定とチャンネル容量の間に余裕をいくらか残します (Cisco Unified Communications Manager でのロケーションとリージョンの設定)。

**(注)**

50 Kbps などの低いレートに制限されている場合、ビデオ会議に参加できないことがあります。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager の設定 \(P.1-4\)](#)

H.323 エンドポイントでのコールの切断

問題 コールが H.323 エンドポイントで切断される

解決策 Cisco IP Communicator が H.323 エンドポイントを保留にした場合、Cisco Unified Communications Manager は Empty Capabilities Set (ECS) と呼ばれる手順を使用します。この手順は、Null Capabilities Set または TCS=0 と呼ばれることもあります。H.323 エンドポイントが保留になった場合の応答を正しく機能させるためには、ECS のサポートが必要です。ECS がサポートされていない場合、H.323 エンドポイントは Cisco Unified Communications Manager の ECS メッセージを認識しないため、そのエンドポイントが保留になったときにコールが切断されます。

そのため、転送、会議、パークといった暗黙的な保留処理が行われる操作でも、コールが切断されます (たとえばコールを転送する場合、Cisco Unified Communications Manager は、転送を完了する前に一度そのコールを保留にします)。

次の解決策を試してください。

- 使用している H.323 エンドポイントが ECS をサポートしていることを確認します。

**(注)**

一部の ECS の実装では、転送、会議、またはパーク操作の後で、音声コールをビデオコールにすることができません。

- エンドポイントが ECS をサポートしていない場合：
 - Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を追加して補足的なサポートを提供し、コールが切断されることなく、保留、転送、会議、およびパークを利用できるようにします。この場合、コールでビデオはサポートされません。
 - 保留、転送、会議、およびパーク機能よりビデオを優先するには、MTP を要求するように H.323 を設定します。ただし、Media Resource Group List (MRGL) とデフォルトの MRGL に、MTP またはトランスコーダが含まれていないことを確認してください。この設定により、デバイスにコールするときに保留、転送、会議、およびパークは無効になり、Cisco Unified Communications Manager は H.323 エンドポイントがこれらの機能をサポートしていないことを認識します。

PC の CPU 使用率が 100 パーセント

問題 PC の CPU 使用率が 100 パーセント

解決策 次の解決策を試してください。

- サポートされているリリースを使用していることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager Release 4.1(3)、Service Release 2 は、Cisco Unified Video Advantage が Cisco IP Communicator または Cisco Unified IP Phone と連携して動作するために必要な最低限のリリースです。サポートされているリリースのリストについては、次の Cisco Unified Video Advantage リリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5662/prod_release_notes_list.html
- PC の CPU リソースの一部を解放するには、ビデオ コール中に使用されていないアプリケーションを閉じます。
- クライアント コンピュータが Cisco Unified Video Advantage のハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細については、次のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5662/prod_release_notes_list.html

Cisco Unified Communications Manager の診断ツールの使用方法

- [Serviceability Troubleshooting Trace](#) の使用方法 (P.4-6)
- [Real-Time Monitoring Tool \(RTMT\)](#) の使用方法 (P.4-6)
- [CDR Analysis and Reporting \(CAR\)](#) の使用方法 (P.4-7)

Serviceability Troubleshooting Trace の使用方法

始める前に

Serviceability ページへのナビゲーションは、使用している Cisco Unified Communications Manager のリリースによって異なることがあります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインします。
 - ステップ 2** 右上にある [ナビゲーション] ドロップダウン リストから、「Serviceability」オプションを選択し、[移動] をクリックします。
 - ステップ 3** [Trace] > [TroubleShooting Trace Setting] を選択します。
-

Cisco Unified Communications Manager Serviceability Trace の設定と使用方法の詳細については、次の URL で、Serviceability のシステム ガイド（「トレース」の項）または Serviceability のアドミニストレーション ガイド（「トラブルシューティング トレース設定」の項）を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

関連項目

- [Real-Time Monitoring Tool \(RTMT\)](#) の使用方法 (P.4-6)
- [CDR Analysis and Reporting \(CAR\)](#) の使用方法 (P.4-7)

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の使用方法

Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool を使用すると、リアルタイム情報（アクティブなビデオ コール、完了したビデオ コールなど）を監視できます。

始める前に

Serviceability ページへのナビゲーションは、使用している Cisco Unified Communications Manager のリリースによって異なることがあります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインします。
 - ステップ 2** 右上にある [ナビゲーション] ドロップダウン リストから、「Serviceability」オプションを選択し、[移動] をクリックします。
-

このツールの設定および使用の詳細については、次のガイドを参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager Release 6.0 の場合 :『Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド』
- Cisco Unified Communications Manager Release 5.x の場合 :
 - 『Cisco Unified Communications Manager Serviceability システム ガイド』の「Real-Time Monitoring Tool」の項
 - 『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「Real-Time Monitoring の設定」の項

これらのガイドは、次の URL でご利用いただけます。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

関連項目

- [Serviceability Troubleshooting Trace の使用方法 \(P.4-6\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting \(CAR\) の使用方法 \(P.4-7\)](#)

CDR Analysis and Reporting (CAR) の使用方法

CAR を使用すると、コールの詳細レコードを表示し、ビデオ コンファレンス ブリッジ情報に関するレポートを生成できます。

始める前に

Serviceability ページへのナビゲーションは、使用している Cisco Unified Communications Manager のリリースによって異なることがあります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインします。
- ステップ 2** 右上にある [ナビゲーション] ドロップダウン リストから、「Serviceability」オプションを選択し、[移動] をクリックします。
-

このツールの設定および使用の詳細については、次のガイドを参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager Release 6.0 の場合 :『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』
- Cisco Unified Communications Manager Release 5.x の場合 :
 - 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「CDR Analysis and Reporting」の項
 - 『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』

これらのガイドは、次の URL でご利用いただけます。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

関連項目

- [Serviceability Troubleshooting Trace の使用方法 \(P.4-6\)](#)
- [Real-Time Monitoring Tool \(RTMT\) の使用方法 \(P.4-6\)](#)

Cisco Unified Video Advantage の診断情報とログ情報の収集方法

- [診断情報の収集 \(P.4-8\)](#)
- [詳細ログのキャプチャ \(アプリケーションの問題が発生した場合\) \(P.4-8\)](#)
- [ログの自動キャプチャ \(アプリケーションがクラッシュした場合\) \(P.4-9\)](#)

診断情報の収集

診断ツールは、PC で実行中の Cisco Unified Video Advantage ソフトウェアの現在の状態に関する技術的な詳細情報を提供します。

- Cisco IP Communicator または Cisco Unified IP Phone に関する接続情報
- Cisco VT Camera のパフォーマンスに関する問題 (低メモリ状態によるビデオ遅延問題など)
- パケット合計数 (送信または受信)、パケット損失、パケット廃棄、平均ジッタと最大ジッタ、平均遅延と最大遅延など、各コールの終端におけるパケット統計情報

診断ウィンドウのすべての情報が、アプリケーション ログに記録されます。

シスコの Technical Assistance Center (TAC) に問い合わせる Cisco Unified Video Advantage の問題をトラブルシューティングする場合、TAC の担当者は、診断ウィンドウに表示される情報の提供を依頼することがあります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Video Advantage を起動します。
 - ステップ 2** コンソール上の任意の場所でマウスの右ボタンをダブルクリックして、診断ウィンドウを表示します。
 - ステップ 3** 左側のナビゲーション ペインにあるオプションをクリックし、特定の診断情報を表示します。
-

関連項目

- [ログ ファイルの場所 \(P.2-6\)](#)
- [詳細ログのキャプチャ \(アプリケーションの問題が発生した場合\) \(P.4-8\)](#)
- [ログの自動キャプチャ \(アプリケーションがクラッシュした場合\) \(P.4-9\)](#)

詳細ログのキャプチャ (アプリケーションの問題が発生した場合)

Cisco Unified Video Advantage の問題のトラブルシューティングに、詳細ログ ファイルが必要になることがあります。詳細ログには、次の特徴があります。

- デフォルトで詳細ログは無効になっており、情報レベル (3) でログが収集されます。
- 詳細ログは、詳細レベル (5) で収集されます。
- 詳細ログは、ユーザが設定を変更するまで有効のままになります。

ログ ファイルは、アプリケーション データ フォルダに格納されます。

制限事項



注意

詳細ログを有効にするようにユーザに指示するのは、管理者が特定の問題を解決する場合に限定してください。詳細ログは、特にローエンド コンピュータでパフォーマンスを低下させます。管理者によるトラブルシューティング作業が完了したら、必ず詳細ログを無効にするようユーザに指示します。

手順

ステップ 1 ユーザ ガイドの手順に従ってログ ファイルをキャプチャするように、ユーザに指示します。

- 詳細ログを有効にします (Cisco Unified Video Advantage コンソール ウィンドウの [Settings] > [Enable Detailed Logs])。
- 可能な場合は、Cisco Unified Video Advantage を再起動してログをクリアし、アプリケーションを既知の状態にします。問題が突然または断続的に発生する場合は、アプリケーションを再起動せずにログをキャプチャします。
- 可能な場合は、問題を再現します。
- Problem Reporting Tool を手動で起動し、レポートを管理者に送信します。

ステップ 2 Technical Assistance Center (TAC) から依頼を受けた場合は、Zip ファイルを担当者に提供します。

関連項目

- [ログ ファイルの場所 \(P.2-6\)](#)
- [診断情報の収集 \(P.4-8\)](#)
- [ログの自動キャプチャ \(アプリケーションがクラッシュした場合\) \(P.4-9\)](#)

ログの自動キャプチャ (アプリケーションがクラッシュした場合)

Cisco Unified Video Advantage が突然クラッシュした場合、Problem Reporting Tool はインストール情報、アプリケーション情報、およびクライアント コンピュータ情報を自動的に収集し、クライアント コンピュータ上でトレース プロセスとクラッシュダンプ収集プロセスを自動的に実行します。

手順

ステップ 1 ユーザ ガイドの手順に従ってログ ファイルをキャプチャするように、ユーザに指示します。

- デスクトップで、自動生成された Zip ファイルを探します。
- Zip ファイルをデスクトップから E メールで管理者に送信します。

アプリケーションのインストール時または展開時に E メール サポート エイリアスを設定した場合は、Zip ファイルは自動的にそこに送信されます。詳細については、関連項目を参照してください。

ステップ 2 TAC から依頼を受けた場合は、Zip ファイルを担当者に提供します。

関連項目

- [コマンドライン オプションによる展開のカスタマイズ \(P.2-5\)](#)
- [診断情報の収集 \(P.4-8\)](#)
- [詳細ログのキャプチャ \(アプリケーションの問題が発生した場合\) \(P.4-8\)](#)